

令和4年度（第2回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年6月23日（木） 13時56分～16時15分
 - 2 開催場所 陵南公民館 大ホール
 - 3 出席委員 後藤昌委員、坂田委員、後藤強委員、高瀬委員、川上委員、菅原委員、田中委員、徳田委員、山尾委員、善積委員（10名）
 - 4 欠席委員 長谷中委員、田上委員、和田委員
 - 5 出席職員 小南教育長、杉本教育指導部次長、福島教育指導部参事、松尾教育指導部参事、今津教育指導部参事、梅野社会教育課長、長谷川少年自然の家所長、田村中央図書館長、高橋加古川公民館長、井部東加古川公民館長、鳥居両荘公民館長、有原志方公民館長、小原加古川北公民館長、松尾野口公民館長、福本氷丘公民館長、中田平岡公民館長、大西陵南公民館長、前田別府公民館長、木村尾上公民館長、社会教育課（畑副課長、川向地域家庭教育係長、今井主事）
 - 6 傍聴者 0名
 - 7 議事要旨
- 開会 13時56分
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

社会教育施設の運営について

（少年自然の家、中央図書館、青少年育成課より説明）

委員

令和4年5月5日に少年自然の家で開催された無料散策日に参加した。拡大イベントとして子どもの発表会もありとてもにぎわっていた。子どもの発表会には親だけでなく祖父母まで集うため非常に良い取り組みであると感じた。しかし600人も来るとなると駐車場に課題はあるため、工夫が必要である。

委員

新加古川図書館の利用実績はどうか。

中央図書館長

新加古川図書館では、10月1日からの半年の開館で20万冊を超える貸出冊数となっており、年間を通じての比較はできないが、貸出冊数、貸出人数ともに増加している。

委員

きれいな施設ができ、また、利便性が良い場所にあるため、利用の増加について期待していた。様々な努力を行っているところだと思うが、引き続き読書の推進に取り組んでいただきたい。

委員

旧加古川図書館は歴史的価値もある建物であるが、今後どのような活用を検討していくのか。

中央図書館長

旧加古川図書館は、8月下旬ごろに耐震診断結果が提出される見込みであり、現時点での様に利用するかは決まっていない。

委員

新加古川図書館で進められている連携事業について、関係部署とはどういったところと連携しているのか。

中央図書館長

これまでは、図書館単独で事業に取り組んでいたが、将棋プラザや加古川西高校などの関係機関とコラボして事業を行っている。

委員

青少年女性センターや勤労会館の貸館機能が、6月1日にオープンした市民交流ひろばに集約されているため、委員の皆さんからもご周知いただきたい。

公民館の利用促進に向けた取組について

(社会教育課、加古川公民館長より説明)

委員

公民館にどのような学習スペースがあるのか。

加古川公民館長

加古川公民館ではロビーが広いので、丸机や長机を配置し自由に使用いただけるようにしている。

委員

私もスポーツクラブのクラブハウスで中学生の自習支援を行っている。家ではなく塾が居場所となっている子どもも多く、どなたがコーディネートするのが課題ではあるが、中高生のニーズが高いと考えるので、公民館でも取り組みを進めていただきたい。

陵南公民館長

陵南公民館ではロビーの奥のスペースを15時から17時に学生が優先的に使える場所として配置している。現状利用者は少なく、PRを行っていく必要がある。

両荘公民館長

夏休みに空き部屋を自習室として活用している、両荘中学校に案内したところ、部活動の前後などに利用いただいたりしており好評である。

委員

先日志方公民館でもロビーで学習している中学生を見かけた。コーディネートを行う人が課題ではあるが勉強できる場所を広げていけたらいいと思う。

委員

先日、少年愛護センター運営協議会に出席したが、家や学校に居場所がなく非行に走ってしまう子どもがいるという現状を聞いた。公民館などの公共施設であたたく見守ってくださる方がいる中で、安心して過ごせるような役割を担っていただくことができれば。どこにも行き場がない子供の受け皿が、どの公民館にもあればと思う。

また、新加古川図書館が入っている建物の7階に子育てプラザがあり、子どもを預けて図書館で勉強するという方が数名いた。勉強したいという気持ちを図書館が後押ししていると実感した。

委員

まちこんひおかにおいて、ヒオカテレビというユーチューブチャンネルを作成し、親子で氷丘公民館へ行こうという事業の様子を紹介している。また機会があれば見ていただきたい。PRの仕方でもSNSを使うなどいろんな手法があると思う。自身の団体のメンバーの募集を広報かこがわに掲載して行ったが問い合わせは少ない。SNSなども手法であると思うが、公民館だよりは、登録団体の情報や事業の情報を直接的に触れることができるととてもいい機会となるため、全戸配布していただきたい。

委員

公民館にいかん人を引き付けるかが重要である。ニーズや各種団体の考え方が多様であ

るため、昔のようにひとくりにまとめて取り組みを進めるのは難しい。そのような状況の中でなんとか提言をまとめることができればと考えている。

委員

公民館は中学校区に1つあり、自転車でも行ける身近な施設である。小中学校と連携して作品展や発表会を行うと子どもだけでなく、保護者や地域の方も一緒に来てくれると思う。また、PTAの研修会でも利用したりできればいいと思う。

学校が地域に近いところにいるので、公民館と学校園が連携することによって活用の幅が広がると思う。

委員

公民館だよりは情報を得ることができるだけでなく、身近な人に紹介し、背中を押してあげることができるいい機会となる。ぜひ全戸配布を行ってほしい。

委員

学校の近隣にあるかどうか、公民館の立地も様々である。PRにも限界がある。令和6年度に両荘地区に小中一貫校ができ公民館も複合するとのことであり、今後の公民館の在り方のヒントになるのではないかと思う。学校教育との連携や不登校の子どもの居場所としても活用できればいいと思う。

委員

子育てをしているときに、子どもが野口公民館の野口太鼓という団体に参加した。お母さん方は広報や公民館だよりを見ている。公民館だよりが配布できないのであれば、何かの形で届くように発信していくことが必要である。なにかしたいと考えておられる方はたくさんいる。魅力的にプログラムに取り組まれているので、PRしていく何かの方法を具体的にこれから考えていただきたいと思う。

委員

公民館職員のスキルアップのための取り組みや機会はあるのか。

加古川公民館長

公民館連合会や生きがい創造協会が実施する研修に参加する機会がある。

委員

今の職員体制では、様々な制限があるため、したくてもできないことが出てきているのではないかと思う。研修の機会を通じて情報交換や共有化の取り組みを進めていただきたい。

委員

20年ほど前にまちづくり懇談会があり、地域住民と市職員が一緒になって事業を行っていた。現在はニーズが多様化しているため社会教育施設にこだわらず、ニーズに合った形でいろんなことできるような施設になればいいと思う。

(報告事項)

(1) 兵庫県社会教育委員協議会総会・研修会(5/30)の参加報告について

(2) 東播磨・北播磨地区社会教育委員協議会総会・研修会(6/2)の参加報告について
(社会教育課、委員より報告)

○ 閉会 16時15分

副委員長あいさつ

以上